

令和４年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等

苫小牧市立明倫中学校

１ 調査の概要

（１）調査の目的

- 子どもの体力が低下している状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

（２）調査の対象

- 中学校第２学年の全生徒

（３）調査の内容

- ① 生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
 - ・ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、２０ｍシャトルラン、５０ｍ走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 - イ 質問紙調査
- ② 学校に対する質問紙調査

（４）調査の方法

- 悉皆調査

（５）調査の実施期間

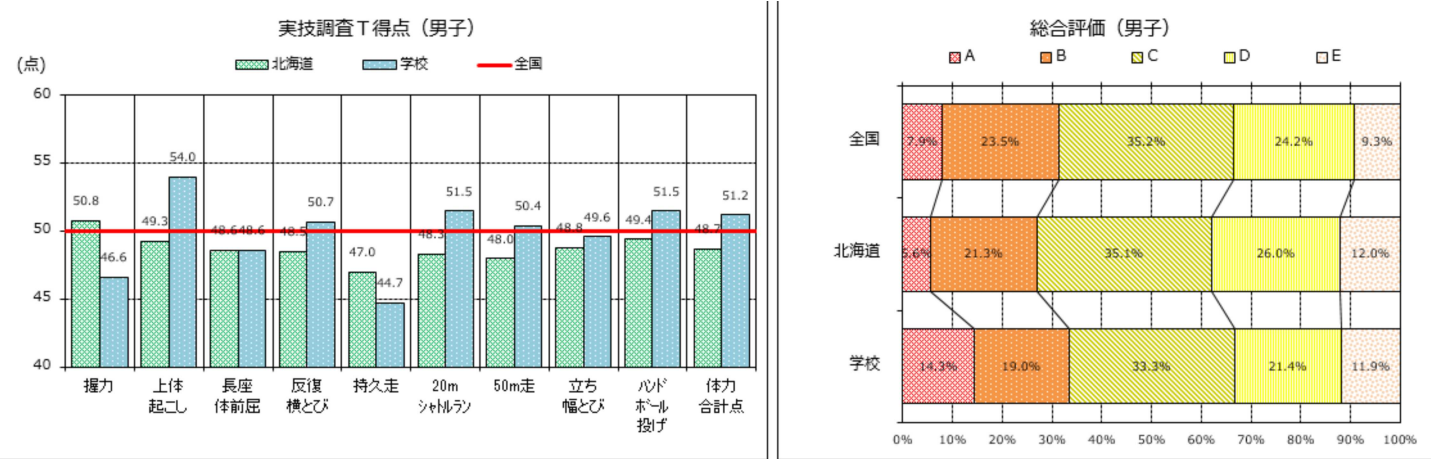
- 令和４年４月から令和４年７月までの期間で実施

（６）調査実施生徒数

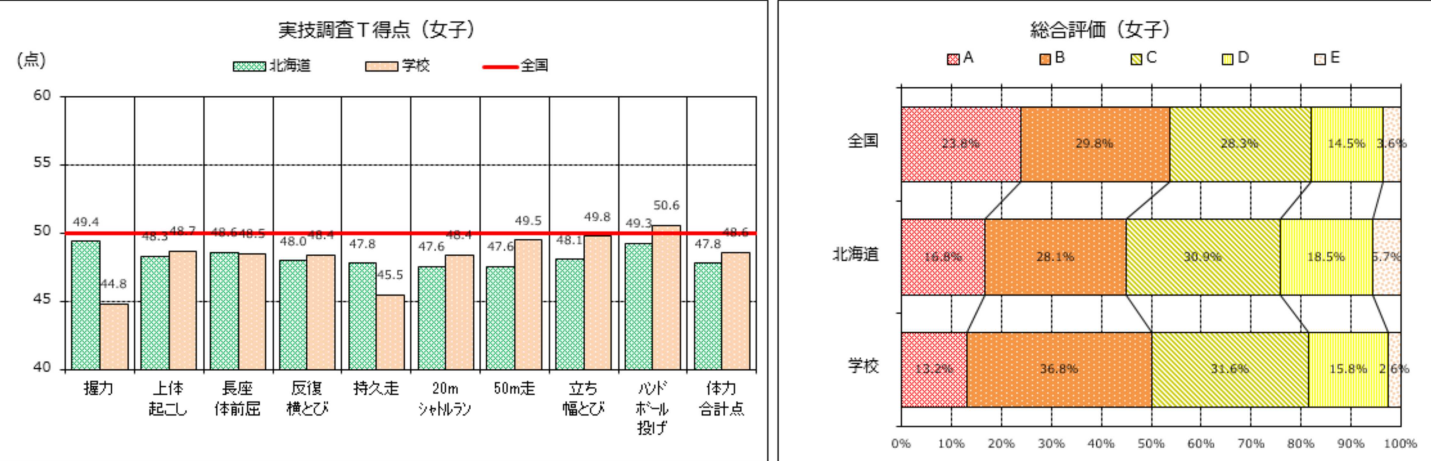
- 男子４７人、女子４８人（計９５人）

2 実技に関する調査

【中学校 2 年生男子】



【中学 2 年生女子】



3 体格と肥満度に関する調査

【中学 2 年生男子】

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長 (cm)	体重 (kg)	肥満 (%)	正常 (%)	痩身 (%)
R4 全国	161.05	50.45	11.5	85.4	3.2
R4 全道	161.92	52.30	15.5	81.2	3.3
R4 本校	162.81	53.24	15.2	84.8	0.0

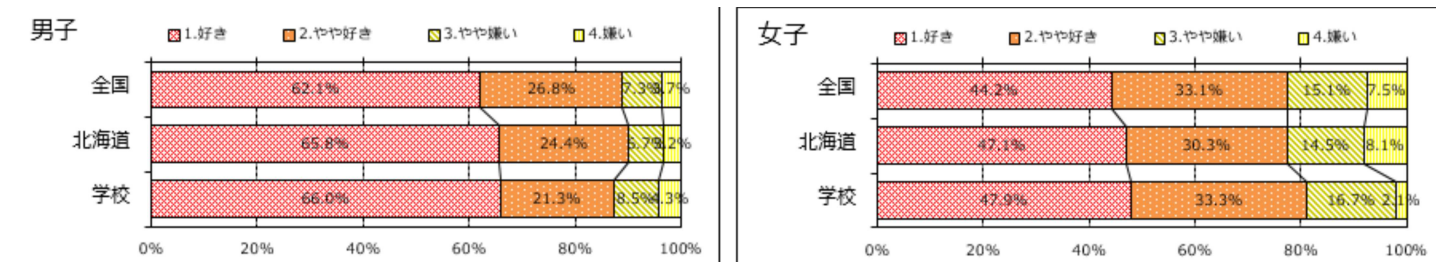
【中学 2 年生女子】

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長 (cm)	体重 (kg)	肥満 (%)	正常 (%)	痩身 (%)
R4 全国	154.92	47.09	7.7	88.5	3.8
R4 全道	155.20	47.61	9.4	86.8	3.9
R4 本校	155.64	46.29	2.1	89.4	8.5

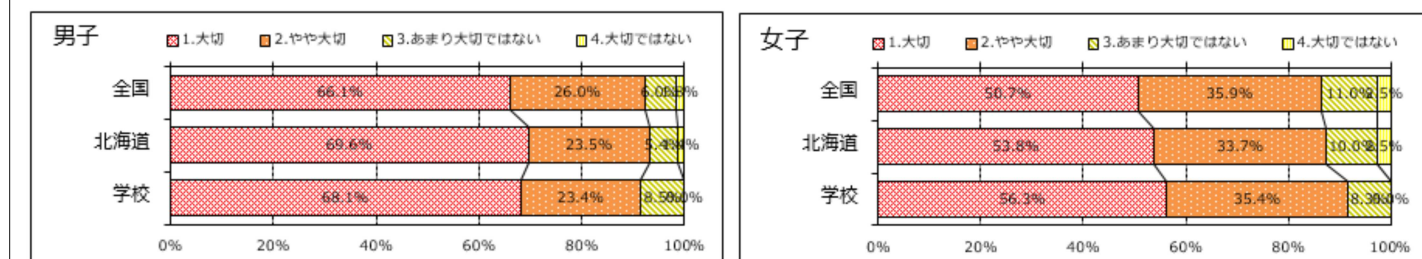
4 生徒質問紙調査

(1) 運動やスポーツに対する意識の状況

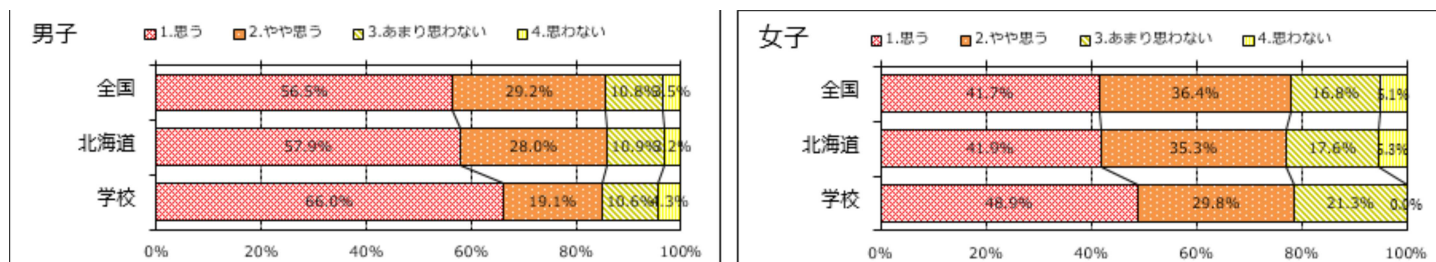
○運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。



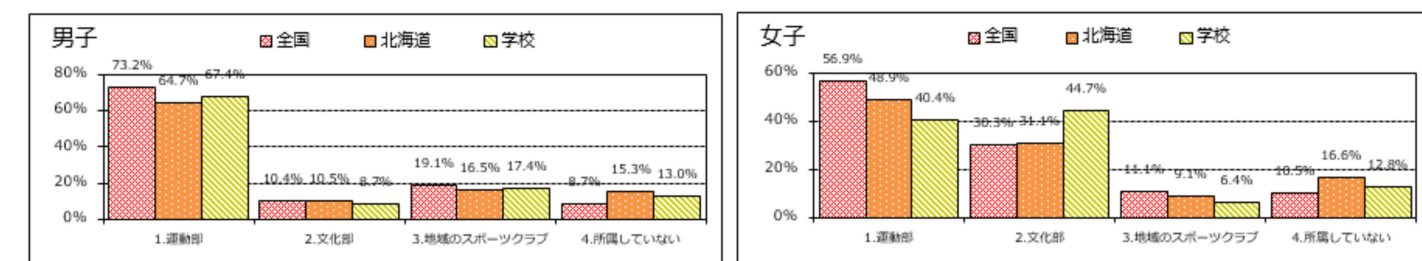
○あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切なものですか。



○中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。

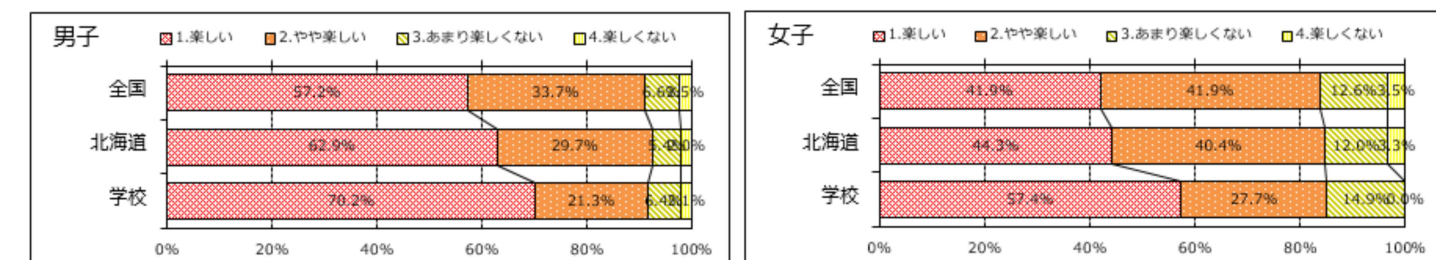


○学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。当てはまるものを全て選んでください。

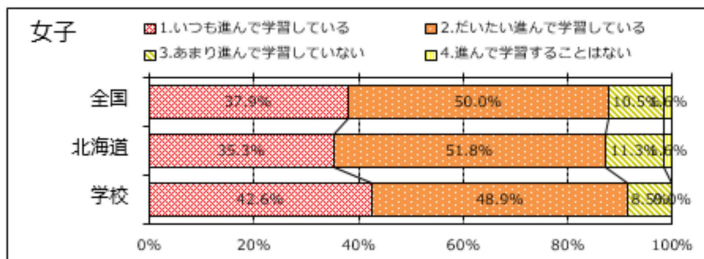
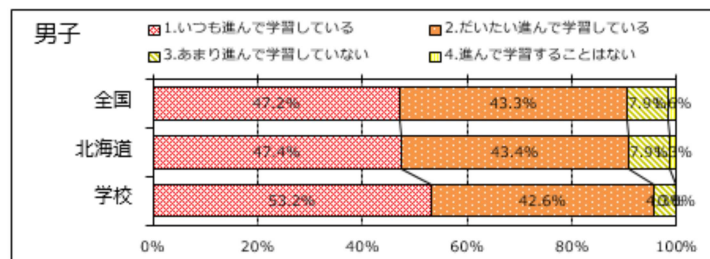


(2) 体育授業の状況（授業に対する意識）

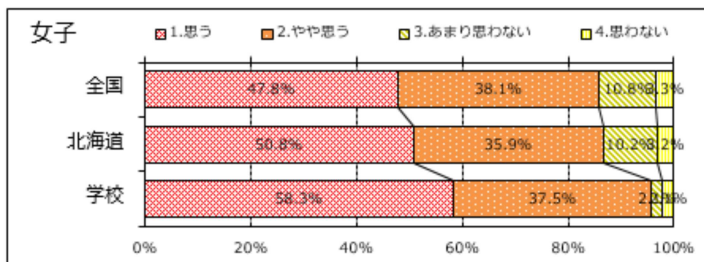
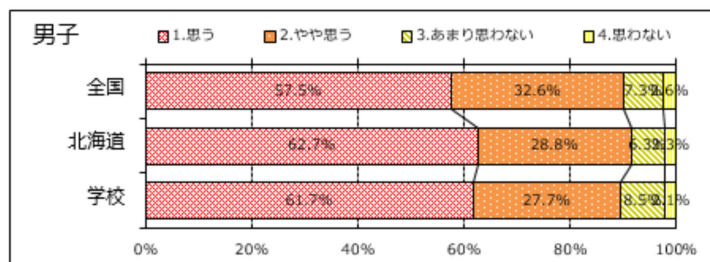
○保健体育の授業は楽しいですか。



○保健体育の授業では、進んで学習に参加していますか。



○保健体育の授業を受けることは、あなたの生活を健康で明るいものにする 1 つの要素になっていますか。



= 調査結果における本校の傾向及び考察等 =

5 実技に関する調査

【中学校 2 年生 男子】

- 「上体起こし」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「ハンドボール投げ」は、全国平均を上回っている。
- 「握力」「持久走」は、全国・全道平均を下回っている。

【中学校 2 年生 女子】

- 「ハンドボール投げ」は、全国平均を上回っている。
- 「上体起こし」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」は、全道平均を上回っている。
- 「長座体前屈」は全道平均とほぼ同程度である。
- 「握力」「持久走」は、全国・全道平均を下回っている。

【令和 3 年度との比較】

- 令和 3 年度と今年度の結果を比較すると、男子の持久走と 50m 走以外の種目、女子では握力以外の種目が過年度を上回った。保健体育の時間において、毎回導入の数分間、補助運動等や基本動作の反復練習を取り入れるなど授業改善の成果が見られた。また今年度も「どさん子元気アップチャレンジ」の短縄跳びに参加しているため、保健体育の時間で縄跳びを計画的・継続的に実施したことが体力向上につながった。
- 令和 3 年度と今年度の結果の比較から、男子の「持久走」と「50m 走」と女子の「握力」が前回は下回りはしたが、大きく落ち込んではいない。今後も継続して保健体育の授業や部活動、体育的行事の中で意図的・継続性ある補助運動等を実施し向上を目指していく。

また、本校の研究課題に即した、保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の視点から子ども同士の教え合いや話し合いを積極的に取り入れる。

- 「心と体の育成プラン」を基に、本校の「体力向上プラクティスプラン」を作成し、全学年において、年間2回の新体力テストを実施している。授業時間での運動量を確保した取組の結果、男女ともに体力合計点が上昇した。
- 男子は「握力」「持久走」「50m走」、女子は「握力」「反復横跳び」「立ち幅跳び」に課題があるため、運動の意欲づくりや日常化への取組をはじめ、補強運動等を計画的に行っていく。

6 体格と肥満度に関する調査

- 男子は、「身長」は全国・全道平均を上回り、「体重」は全国平均と同等。肥満・痩身は少なく、93.6%が普通である。
- 女子は、「身長」は全国・全道平均を下回り、「体重」は全道平均と同程度であるが、91.1%が普通である。

7 生徒質問紙調査

(1) 運動やスポーツに対する意識の状況

- 「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好き」と回答した生徒の割合は、女子では全国・全道平均を上回っており、男子は全国・全道平均と比べると、わずかに運動を苦手とする生徒の割合が多い様子だが、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切なもの」と回答した生徒は、男子で91.5%、女子で91.7%と女子は全国・全道平均を上回っている。

(2) 体育授業の状況（授業に対する意識）

- 「体育の授業が楽しい」においては、「楽しい」と「やや楽しい」が男子で91.5%、女子で85.1%であった。運動に対して苦手意識のある男子生徒が少数見られるが、より楽しいと感じられる授業となるように工夫し、各自の自己効力感を高める授業を目指した取組を行いたい。